

CO・OP

京都の生協

2026/August/No. 116
京都府生活協同組合連合会



京たけのこがつなぐ、人・地域・未来。

TalkTalk トークとーく

●清水農園代表 清水大介さん
●京都府生活協同組合連合会 会長理事 西島秀向



TalkTalk

トークとーく

対談

京たけのこがつなぐ、 人・地域・未来。

清水農園代表 清水大介さん

京都府生活協同組合連合会 会長理事

西島秀向

京都市西京区で5代にわたり農業を営む清水農園。地域特産の京たけのこをはじめ、年間約25品目の農産物を栽培し、品質と旬にこだわった農業を続けています。

また、「きょうと食いく先生」として小・中・高校や大学などで食育・キャリア

教育にも取り組み、農業を通して人づくりや地域づくりにも力を注いでいます。

今回は、京たけのこの伝統を守りながら、人や地域、未来を育む清水さんの想いと挑戦について伺いました。

お客様の声を力に、旬のおいしさを追求

西島 まずは清水農園についてご紹介いただけますか？

清水 京都市西京区を中心に、春は京たけのこ、夏はトマトやキュウリ、ナス、冬は大根やほうれん草、九条ねぎなど、年間約25品目の定番野菜を栽培しています。京たけのこの竹林が約30アール、桂川の河川敷などで約30アールの畑が

あるほか、亀岡市などでも約3ヘクタールの水稻栽培を行っています。都市近郊型の少量多品目栽培が特徴ですね。

西島 こだわっておられる点は？

清水 品質を何よりも大切にしています。安心・安全はもとより、私と従業員2人が揃って「おいしい」と納得した

ものを販売しています。だから、私が「これはいい」と思っても彼らの賛同が得られないと出荷できないんですよ（笑）。

もう一つのこだわりが野菜の「旬」です。ずいぶん前に、夏が旬のタマネギ・ジャガイモに、本来は冬野菜のニンジンを含ませたカレーセットを考えたことがあったんです。

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

京たけのこがつなぐ、人・地域・未来。……………2

くらしの安全

適格消費者団体・特定適格消費者団体・NPO法人消費者支援機構関西（KC's）通常総会・記念シンポジウム……………7

適格消費者団体・NPO法人京都消費者契約ネットワーク（KCCN）総会・記念講演会……………7
第57回京都消費者大会後援……………7

京都府生協連第73回通常総会開催……………8

総会だより

京都労働者福祉協議会第70回定期総会……………8

京都府災害ボランティアセンター総会・情報共有会……………8

京と地球（アース）の共生府民会議総会……………8

きょうと食育ネットワーク総会・情報交換会……………9

特定非営利活動法人気候ネットワーク総会……………9

2026年国際協同組合デー第36回京都集会「地域を支

える協同の力が未来をつくる〜つながりが生む新し

い価値」をテーマに開催……………10

能登半島地震被災地支援サロン活動……………11

ピースアクション京都 2026……………12

憲法学習会「紛争地から見た憲法〜平和を選び続ける

ためにあなたとふみ出す平和の一步〜」開催報告……………13

京都府生協連 第54回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」……………14

おもな行事のお知らせ……………14



京都府生活協同組合連合会 会長理事
西島秀司

ところが、同じ品種でも夏に育てたニンジンにはあきらかに味が劣っていました。即座に中止するとともに、我ながら浅はかだったと反省し、以来「旬の時期に一番おいしいものを届ける」ことを徹底しています。そして、これまでにイタリア野菜などめずらしいものも含め数々の品種を試してきた結果、今のラインナップ

プに落ち着いています。
西島 厳選された定番野菜なんです。販売はどのようにされていますか？
清水 市場を通さず、主に直売所で販売していて、京たけのこは全国にも発送しています。

接ご感想やご意見を伺えることですね。次に活かすことができますし、何より「あの方、いつもトマトを楽しみにされているな」「今年もこのお米を予約してください」と思うと、近年の酷暑や天候不順でくじけそうな時も頑張れるんです。お客様との顔の見える関係が大きな励みになっています。

京たけのこの品質を支える 伝統ある「京都市軟化栽培法」

西島 京たけのこは全国的にも高く評価されていますが、そのおいしさを支えているのが「京都市軟化栽培法」だそうですね。

清水 はい。京都西山地域で受け継がれてきた伝統的な栽培法で、一年を通して竹林の手入れを続けています。例えば、親竹の先端を折る「しん止め」は、竹林に太陽の光を取り込んでたけのこの発生を促すとともに、台風により竹が倒れるのを防ぐ大切な作業です。その他、草刈り、施肥、稲わらを竹林一面に敷き詰める「敷きわら」、その上から

新しい土をかぶせる「土入れ」などを毎年繰り返しています。実は、竹はイネ科の植物なんです。お米の栽培でも、稲刈り後の田んぼに稲わらを撒きますよね。稲わらにはイネ科のお米や竹の生育に欠かせないケイ酸が含まれているんです。竹林に施す「敷きわら」には、土の保水性を向上させ、地中温度を保ってたけのこの生育を促進させるほか、大切な養分を与える意味があります。さらに「土入れ」によって地下茎の位置を深くすることで、やわらかく品質の高いたけのこを育てています。

西島 春先にたけのこを掘るだけではなく、一年を通して地道な作業が積み重ねられているのですね。

清水 そうなんです。また、この地域は約130万年前、約30万年前に繰り返された海の浸水によって粘土質の土壌が形成され、水持ちがよく竹の生育に適しています。さらに150年以上にわたって手入れを続けてきていますので、かけがえのない財産だと思っています。

清水 そうですね。ただ、私は京都のやり方だけが一番だとは思っていません。今年の1月には千葉県大多喜町に視察に行き、次は福岡県の合馬にも勉強に行く予定です。いずれもたけのこの有名産地で、それぞれの土壌や気候などに応じて工夫されています。国産たけのこの生産量が減少するなか、「京都だけがよければよい」という考え方は未来の発展は望めません。京都の伝統を守りながら、他の産地の優れた技術も積極的に学び、国産たけのこの魅力を次の世代へつないでいきたいと考えています。



清水農園 代表
清水大介さん
食育体験終了記念品のランタン



父から受け継いだ、農業への姿勢と地域に尽くす心

西島 5代目として家業を継がれた経緯を教えてくださいますか？

清水 実は最初から強い使命感があったわけではないんです。私が大学生の頃は就職氷河期で、進路について思い悩むなか、ここで「農業をやる」と決めてしまえば一区切りつけられるという思いがきっかけ

でした。当時は体育会フットサル部の立ち上げにも力を入れていましたし、正直「甘え90%」と言ってもいいくらいの気持ちでした。

ただ、子どもの頃から父について竹林の仕事は手伝っていましたし、もともと就職して定年を迎える前に退職し、農業をしたいとは考えていま

した。そして、「やるからには本当にいいものをつくりたい」という思いもありましたね。

西島 お父様から受け継がれたものは大きかったのでしょうか。

清水 そうですね。父は私が26歳の時に亡くなったのですが、晩年は病気がちだったこともあり、一緒に仕事ができなかった期間が3年もありませんでした。厳しい父で、当時も喧嘩ばかりでした。でも

この時に教わった知識や技術はもちろん、「お客様によるこんでいただきたい」という農業に取り組む姿勢は今も自身の原動力になっています。それに、若いうちから腰を据えて始めていなければ、「本当にいいものをつくる」ことはできなかったとつくづく感じています。

西島 お父様はどんな方だったのですか？

清水 父も祖父も人を喜ばせることが大好きで、思い立ったら仕事を置いてでも動くような人でした。見返りを求めず地域のために尽くす。そんな父の背中を見て育ったこと

は大きな意味がありました。今、私が農業だけでなく、食育や地域での活動にも力を入れている根底には、その想いを受け継いでいきたいという気持ちがありますね。



竹に書かれている数字はその竹が親竹になった西暦の下一桁

環境変化に対応するとともに、農業の価値を積極的に伝えていきたい

西島 近年は地球温暖化など農業を取り巻く環境も大きく変化してきていますね。

清水 一番大きいのは、やはり夏場の暑さですね。例えば、ナスは十分に水を与えていても、強い日差しで皮が日焼けしてしまします。亀岡市の水田はため池の水を利用してはいますが、雨量の減少で枯れる

寸前にまでなったこともありました。竹林も乾燥によりたけのこの出が悪くなるため、竹の本数を増やして日陰をつくるなど、試行錯誤を続けながら管理しています。

西島 従来のやり方だけでは対応できなくなってきたんですね。

清水 もう死活問題になって

いますね。また、従業員の熱中症対策も重要で、当農園でも、真夏は正午から午後3時、暑い時は4時頃まで外での作業を控え、スポーツドリンクや空調服を支給しています。雨不足の一方で、台風やゲリラ豪雨の影響も甚大です。2013年の台風で桂川が氾濫した際には、畑に大量のゴ



ミが流れ込み、片付けに大変苦労しました。今でも台風や大雨の予報を見ると、もう心臓がドキッとしますね。

また近年は、外来種のノメイガという蛾の幼虫による被害も深刻です。竹の葉が食べ尽くされ、収穫量が大きく減る竹林も出ています。「これまでどおり」が通用する時代ではなくなったと実感しています。

西島 気候変動だけでなく、新たな害虫への対応まで必要なんです。

清水 そうなんです。加えて肥料などの資材価格も上昇しています。野菜は価格転嫁

しにくい現状があります。そうしたなかで、生産者が手間や時間をかけて育てた農産物の価値を知っていただくことが大切だと思っています。

西島 「安ければいい」ではなく、食への意識を高めると

食育を通して育む、人と地域のつながり

いうことですね。

清水 はい。京都には「京都援農隊」という京都府内の農家とボランティアを繋ぐ公共事業があり、うちの農園にも来てくださっています。また、料理人の方に農作業を体験し

いただくこともあります。一緒に作業することで親しみを感じ、おいしく味わっていただけるとうれしいですね。こうした機会を積極的に持ち、農業を守る力につなげていきたいと考えています。

感じ取ってもらえたらうれしいですね。

西島 体験を通して学ぶことを大切にされているんですね。

清水 そうですね。他にも同志社女子大学では、大学内の畑での野菜づくりやバケツ稲の栽培指導をしていて、当園の竹林でたけのこの収穫も共にしています。

西島 食育や地域での活動にも積極的に取り組んでおられますね。

清水 父の代から地元の檜原小学校で食育活動に取り組んでいます。現在は4年生がバ

ケツ稲を使った稲作体験を、5年生は檜原の農家さんの田んぼで、田植えから収穫、小学校で刈り取りまで手作業で行っています。また、体験するなかで子どもたちが抱いた疑問について、クイズ形式で授業もしています。土に触れながら、多くの手間を経たお米が食卓に届くことを体感し、食べ物への感謝や農業を身近に感じるきっかけになればと願っています。

す。また、収穫期には私がたけのこを学校に届け、生徒たちと一緒に調理・試食をしています。

実は、この取り組みで学校から求められているのはキャリア教育なんです。大学進学などに際し、将来に向けた目的意識をもってほしいということですね。「どんな思いで農業に向き合っているのか」などを言葉でも説明していますが、一緒に汗を流しながら作業をするなかで、一生懸命働くことの大切さや、人のために仕事をする喜びを自然に

西島 本当に幅広い活動ですね。

清水 檜原小学校での取り組みがきっかけで推薦していただき、京都市立紫野高等学校の生徒に、京だけのこの土入れなどを体験してもらっています。

しているそうですね。





清水 農業を身近に感じる人を一人でも増やそうと取り組んでいます。食育で出会った

人数も記録していて、西京区の約6万5000世帯と同じ6万5000人をめざしています。そうすれば数字上、各世帯に一人は農業に触れた経験のある人がいる状態になります。農業への理解が深まれば、食べ物への感謝の気持ちも育ちますし、生産者の思いにも触れていただけます。誰にとっても欠かせない食の大切さを次の世代へ伝えていきたいですね。

清水 実はこちらの母は40年以上、京都生協さんの共同購入にお世話になっていまして、直売所の前が配送場所なんです。私の同級生のお母さんをはじめ、地域のみなさんが自然と集まり、交流が生まれていますし、うちの野菜のファインにもなつてくださっていてありがたい限りです。農業を通して人と人とのつながり、地域が元気になる。そんな場づくりには、私たちも貢献していければと思っています。

え、たけのこの収穫体験を実施しました。海外の方に日本のたけのこという食文化を広めるきっかけになればと、とても楽しみにしています。さらには、農業者が後継者不足や人手不足に悩むなかで、学生が「援農」という形で関わる文化も築きたいと思っています。学生の街・京都にある清水農園として、農業と学生が連携するモデルケースになれるよう取組みを広げたいです。

プロフィール 清水大介（しみず だいすけ）

清水農園代表。同志社大学経済学部卒業後、富山県の農業法人で米づくりを学び、2006年に実家の農業を継ぐ。京都市西京区を中心に、京たけのこや米、年間約25品目の野菜を栽培。品質と旬にこだわった都市近郊型農業を実践するとともに、京都府の「きょうと食いく先生」として食育・キャリア教育にも従事。京都西山の京たけのこの魅力発信と、農業を通じた地域づくりに取り組んでいる。京都市立紫野高等学校学校運営協議会委員、京都府食育推進懇談会委員などを務める。



京たけのこの魅力を未来へ、世界へ

西島 最後に、今後取り組んでいきたいことについてお聞かせください。

清水 まずは、京たけのこの質の追求ですね。お客様に感動していただき、贈答品として贈られた方が感謝されるような京たけのこを生産していきたいです。来年は今年よりもさらにいいものをお客様にお届けしたい。その連続ですね。質の追求に終わりはありませんので、人生をかけて挑

戦したいと思っています。そして、京都西山の京たけのこの素晴らしさを、もっと多くの方に知っていただきたいです。生産者は一年を通して手間暇をかけて育てていますが、その努力はまだ十分に伝わっていません。だからこそ、どのような思いで栽培しているのかも含めて発信し、京たけのこの付加価値をさらに高めていきたいと考えています。それが、生産者が報わ

れる社会や、農業の社会的価値の向上にもつながると思っています。

もう一つ力を入れていきたいのが食育・教育活動です。子どもたちをはじめ高校生や大学生などさまざまな世代と関わりながら、食への感謝はもちろん、仕事のやりがいや人のために尽くす喜びなども伝えていきたいですね。昨年、アメリカの大学生が清水農園を訪れてくれて、一緒に田植

また毎年、清水寺の降誕会の際に当園の京たけのこをご奉納しています。そうした関係性を大切にしなが、海外からの観光客の方々にも発信していきたいですね。そして、和食、茶道、華道など、京都のさまざまな伝統文化に携わる方と連携させていただき、京都ならではの食文化や農業の魅力を国内外へ発信するイノベーションを起こしたいとも思っています。

西島 京たけのこの伝統を守るだけでなく、人を育て、地域、世界に発信していく。夢はどんどん広がっていますね。
清水 私一人でできることには限りがありますが、多くの方とのご縁やつながりに支えられながら、農業を通して地域に恩返しをしていきたいと思っています。京都西山の京たけのこを次の世代へつなぐことはもちろん、農業の魅力や価値を伝える活動にも力を注ぎ、一人でも多くの方に農業を身近に感じてもらえたらうれしいですね。

適格消費者団体・特定適格消費者団体・NPO法人消費者支援機構関西(KC's) 通常総会・記念シンポジウム

6月27日(土)、大阪産業創造館6階会議室E及びオンラインで開催されました。



消費者支援機構関西(KC's)・
薮田高広理事長

提案されたすべての議案(2025年度事業報告・決算、2026年度事業計画・予算など)が可決承認されました。

総会終了後臨時理事会を開催し、今総会をもって退任された小林紀久子氏、米田寛氏に代わり、新たに全大阪消費者団体連絡会事務局長の立石孝行氏、消費者支援機構関西事務局の傘木誠氏が補充選任されました。

新旧理事のあいさつの後、記念シンポジウムを開催。基調講演として、大阪公立大学大学院法学研究科・和久井理子教授から「公正な市場形成を目指して」適格消費者団体と事業者・事業団体とが協働してできることできないことと」をテーマに基調講演がありました。

講演終了後は、消費者支援機構関西・薮田高広理事長がコーディネーターを務め、講演いただいた和久井理子氏(公社)全国消費生活相談員協会関西・雪美保子支部長、消費者支援機構関西・片山登志子副理事長(弁護士)、消費者支援機構関西・二宮義人常任理事(弁護士)でパネルディスカッションが行われました。

適格消費者団体・NPO法人京都消費者契約ネットワーク(KCCN) 総会・記念講演会

5月25日(月)、京都司法書士会館で、適格消費者団体・NPO法人京都消費者契約ネ



消費者庁取引対策課・遠藤幹夫課長

ットワーク(KCCN)総会が開催されました。

はじめに、同ネットワーク・野々山宏理事長よりあいさつがありました。石田郁雄理事が議長に選任され、増田朋記理事・事務局長の進行のもと、総会議事に入り、全議案が可決されました。

理事の交代があり、門野晶理事が退任、岡本美香子氏(消費生活相談員)が理事に就任されました。

総会後に消費者庁取引対策課・遠藤幹夫課長をお迎えし、「デジタル取引・特定商取引法等検討会について(第5回までの検討状況)」と題して、記念講演会がオンライン配信との併用で開催されました。

「デジタル取引に関する消費者トラブルが増加しており、特にSNSを使った勧誘や定期購入トラブルが高水準で推移しているなか、検討会議では、『悪質な取引』に焦点を当てて制度整備を進めており、消費者が安心して取引できる健全な市場づくりをめざして検討していく方針である」と述べられました。

第57回 京都消費者大会後援

5月30日(土)、京都経済センターとオンラインを併用して開催されました。主催は

京都府、京都市、NPO法人コンシューマーズ京都で、京都府生協連が後援しました。テーマは「その選択、本当に自分で決めていますか? AIとの上手なつきあい方」。

京都府立大学・浅田太郎副学長(京都府立大学大学院生命環境科学研究科ヒューマンインタフェース研究室教授)より「AIのしくみと安全な利活用について」と題して講演がありました。AIは便利

な道具だが、万能ではない。AIに判断を任せきりにするのはなく、人間が最終的に責任を持つことが重要と話されました。

つづいて、加藤進一郎弁護士をファシリテーターに、京都生協・上羽祐子執行役員(機関組織運営系統統括マネジャー)とBiz Groove Consult-ing中小企業診断士事務所・谷口佳巳代表が登壇、「消費者とAIのちょうどいい付き合い方」についてパネルディスカッションがありました。153人が参加しました。



京都府立大学・浅田太郎副学長

京都府生協連 第73回通常総会開催

全議案を満場一致で可決、役員21人を選任

6月18日（木）、午後1時30分から京都経済センターで開催しました。

今総会の代議員数は45人で、当日の出席は本人出席17人、委任出席1人、書面出席27人でした。ご来賓をはじめ、47人が参加しました。



開会のあいさつをする西島秀向会長理事

西島秀向会長理事が開会のあいさつをのべました。つづいてご来賓の京都府文化生協連・大路裕子副部長（京都府・西脇隆俊知事代理）、京都労働者福祉協議会・原敏之会長から、ご祝辞をいただきました。

松本樹事務局長が、国会議員、各関係団体、各生協からいただいた73通の祝辞や祝電・メッセージの一部をご紹介します。

提案されたすべての議案が、満場一致で可決されました。

員外理事をふくむ18人の理事と3人の監事が選任されました。

2026年度の役員体制は左ページのとおりです。



祝電・メッセージをお寄せいただいた方がた

（敬称略・順不同・6月18日現在）

衆議院議員自由民主党	勝目康	衆議院議員自由民主党	本園太	田嶋郎	衆議院議員自由民主党	繁本護
衆議院議員自由民主党	北神主朗	衆議院議員自由民主党	園崎弘道	嶋道	衆議院議員自由民主党	藤田洋司
衆議院議員日本維新の会	前原誠司	衆議院議員中道改革連合	泉ケンタ	ケンタ	参議院議員自由民主党	吉井章
参議院議員日本維新の会	新実彰平	参議院議員立憲民主党	福山哲郎	哲郎	京都府社会福祉協議会会長	小畑英明
京都市市長	松井孝治	京都府議会議長	荒巻隆三	隆三	京都府農業協同組合中央会会長	畑川泰宏
京都市社会福祉協議会会長	高屋宏章	京都商工会議所会頭	堀場厚夫	厚夫	京都府労働組合中央会会長	中宮崎正
京都府漁業協同組合代表理事組合長	倉幹夫	京都府森林組合連合会代表理事会長	青合	合	近畿労働金庫理事長	

総会だより

京都労働者福祉協議会 第70回定期総会

5月28日（木）、ラポール京都（京都労働者総合会館）で開催されました。京都労働者福祉協議会（京都労働協会は、「連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくる」をスローガンに掲げ、行政や労働団体などの関係団体と連携し、勤労者福祉の向上などさまざまな活動を展開しています。

提案された「2025年度活動報告・会計報告等」「2026年度活動方針・予算」「役員体制」等の議案すべてが承認されました。

京都府生協連では総経理専務理事を理事に派出しています。

京都府災害ボランティアセンター総会・情報共有会

5月28日（木）、ハートピア京都大会議室で開催されました。

寄付金の活用内容や承認方法等について明確にするため提案された規約の改正を含む、すべての議案について審議され、承認されました。

総会後に加盟団体による情報共有会が開催され、京都府生協連・松本樹事務局長が、能登半島地震の支援のようすなどを含む、活動報告を行いました。

同センターは、2004年に発生した台風23号による災害の教訓をいかし、被災地で円滑なボランティア活動をおこない早期復旧に尽くすことを目的に2005年に行政・民間団体・社会福祉協議会等による公・民協働、常設の災害ボランティアセンター組織として発足しました。

京都府生協連は正会員として加盟しており、当会事務局が副代表をつとめています。

京と地球（アース）の共生府民会議総会

5月28日（木）、オンライン形式で

2026年度役職員体制

6月18日現在(敬称略) *印は新任

代表理事・ 会長理事	西 島 秀 向 (員外)
副会長理事	高 倉 通 孝 (京都生活協同組合専務理事)
副会長理事	姫 田 歩 (京都大学生協同組合専務理事)
代表理事・ 専務理事	鯉 江 賢 光 (員外)
常任理事	田 村 敏 (京都府庁生活協同組合専務理事)
常任理事	飯 塚 光 一 (立命館生活協同組合専務理事)
常任理事	上 西 良 太 (乙訓医療生活協同組合専務理事)
理 事	奥 谷 和 隆 (京都高齢者生活協同組合くらしコープ専務理事)
理 事	川 村 幸 子 (員外)
理 事	姜 美 名 (京都生活協同組合副理事長)
理 事	上 坂 光 彦 (やましろ健康医療生活協同組合専務理事)
理 事	清 水 泰 治 (京都医療生活協同組合専務理事)
理 事	杉 江 勇 亮 * (京都府立医科大学京都府立大学生協同組合専務理事)
理 事	田 中 和 豊 * (全京都勤労者共済生活協同組合専務理事)
理 事	西 村 奈 美 * (生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ理事長)
理 事	筆 口 智 子 (生活協同組合コープ自然派京都理事長)
理 事	吉 岡 克 巳 (京都生活協同組合常務理事)
理 事	吉 田 不 二 男 (京都市民共済生活協同組合専務理事)
特定監事	長 誠 一郎 (乙訓医療生活協同組合監事)
監 事	大 川 洋 (京都生活協同組合常勤監事)
監 事	崎 濱 誠 (龍谷大学生協同組合専務理事)

(事務局)

事務局長	松 本 樹
事務局担当	川 端 浩 子
事務局担当	岡 本 朋 子



京都府生協連・
鯉江賢光専務理事

当日は5人の代議員から、地域生協・大学生協・職域生協・共済生協の活動について、4件の活発な発言がありました。これらの発言をふまえ、鯉江賢光専務理事が、「日本では、くらしの不安、自然災害への脅威が増大しつつあります。こうしたなかで、生協への期待は確実に高まっています。京都の地域に根差した協同の力をさらに発揮し、京都の生協が力を合わせ、組合員のくらしを支える取組みをすすめていきましょう」と、まとめをおこないました。



同志社生協
加藤由美代議員

「法人同志社150周年への貢献とこれから」



京都生協
上田夏子代議員、平石信子代議員

「協同の力で平和と希望を届けよう」



全京都勤労者共済生協
秋田直人代議員

「第54回京都の生協活動を豊かに発展させる協議会(略称KSK)における防災・減災学習会報告について」



京都府庁生協
本多浩代議員

「事業改善1000のチャレンジ」

今回退任された役員のみなさん

(敬称略)

理 事	山 路 容 子 (生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ 前理事長)
理 事	柳 澤 克 哉 (京都橘学園生活協同組合 専務理事)

開催されました。京都府総合政策環境部・松浦快仁部長より開会のあいさつがありました。令和7年度事業実績報告および令和8年度事業計画等、すべての議案が議決されました。事業計画では、令和8年2月11日開催予定の京都環境フェスティバル、環境連続セミナーの開催等について報告がありました。その後、構成団体による活動状況、取組事例についての報告がされました。当会議は、京都府生協連を含む45の団体で構成されています。

**きょうと食育ネットワーク
総会・情報交換会**

7月31日(金)、京都ガーデンパレスを会場に、総会は会場での開催、情報交換会は会場及びオンラインで開催されました。提案された「令和7年度事業報告」「令和8年度事業計画」等の議案すべてが承認されました。

「大人の食育」をテーマにした情報交換会では、京都府から「第5次京都府食育推進計画(大人の食育)」について情報提供のあと、摂南大学農学部食農ビジネス学科・中塚華奈准教授より「大人の食育とは、食を学び、食で社会を変える」と題した講演があり、「食育活動で取り組んでいること、今後取り組んでみたいこと」をテーマに交流しました。京都府生協連・松本樹事務局長が幹事をつとめています。

**特定非営利活動法人
気候ネットワーク総会**

6月25日(木)、オンラインで開催されました。浅岡美恵理事長より開会のあいさつがあり、田浦健朗理事長から議案提案がありました。2025年度事業報告・収支報告および2026年度事業計画・予算等、すべての議案が議決されました。オンラインでの開催ということもあり、31人がオンライン出席、98人が委任、13人が書面での出席でした。

2026年国際協同組合デー 第36回京都集会

「地域を支える協同の力が未来をつくる」つながりが生む新しい価値」をテーマに開催



7月1日（水）、京都JAビルで開催され、JA、JF、森林組合、生協から、会場103人、オンライン15人の計118人が参加しました。国際協同組合デーは毎年7月第1土曜日を全世界の協同組合員が心をひとつにして協同組合の発展を願い、平和とよりよい生活を築くために、運動の前進を誓い合う日として、1922年に制定されました。



JA京都中央会・中川泰宏会長理事

京都では毎年、京都府協同組合連絡協議会（JA京都中央会・京都府森林組合連合会・JF京都・京都府生活協同組合連合会）の主催で記念集会

を実施しています。

司会は京都府森林組合連合会・南靖弘課長が担当し、JA京都中央会・中川泰宏会長理事より開会あいさつがありました。



阪南大学・加賀美太記教授

記念講演は「地域における協同・つながりと世代を超える価値」と題して、阪南大学経営学部加賀美太記教授にご講演をいただきました。

参加者からは、「Z世代にからめた協同組合の話はとても興味深かったです。色々と課題はありますが、アプローチの仕方次第で協同組合は唯一無二の存在になることも可能なのではと胸がふくらみま

京都府生活協同組合連合会
西島秀向会長理事

した」「社会の変化から、家族構成やひとり暮らし率の増加などの変化も、データと共に見ることで、より実感と今後の展望についても理解出来ました。世代別でも、その世代が何歳の時にどんな社会的な重大な出来事を経験したかによって、世代の価値観が形成されるといってお話を聞き、解像度が上がりました」など多くの感想がよせられました。各協同組合からは、「協同組合の担い手が語る」と題した活動報告がありました。閉会にあたり、京都府生活協同組合連合会・西島秀向会長理事があいさつをおこないました。

協同組合の担い手が語る

総合事業を活かした
くらしの活動の取り組み

京都やましろ農業協同組合
総合企画部ふれあい課長

西尾 嘉文氏



海の恵みを守るために一
致団結！～クロマグロの資
源管理の取り組み～

京都府定置漁業協会漁労長会

濱崎 康成氏



美山町森林組合の活動に
ついて

美山町森林組合 技師補

多賀 誠太郎氏



京都生協の事業報告と
デジタルイノベーション
部の業務報告

京都生活協同組合
デジタルイノベーション部SE

井上 康平氏



能登半島地震被災地支援サロン活動

7月19日(土)～20日(日)、
京都生協に協力いただき、10
人が能登半島地震被災地支援
サロン活動に取組みました。

輪島朝市が開かれていた場
所は、能登半島地震により火
災が発生し、約240棟が焼
失。今も整地された状態のま
まです。現在、ワイプラザ輪
島店にて出張朝市が開催され
ており、一日目に見学に訪れ
ました。出張朝市では、お魚
の干物や地酒、輪島塗のお箸
のお店等30店舗ほどが営業さ
れています。



出張朝市のようなす

朝市を見学後、災害NGO
「^{ゆい}結」の町野ベ^{とむ}ースを訪問し、
代表の前原土武さんから、地
震発災直後の状況、その後の
水害発災時の状況報告、発災
直後から現在までの取組み等
についてお話いただきました。



災害NGO結・前原土武代表

なる」とのお話がありました。
京都府でも災害が発生する
と同様の状況になる可能性が
高く、平時から助け合いがで
きるつながりを強め、災害に
強い地域づくりが大切だと実
感しました。

二日目は、能登町^{うか}鵜川公民
館にてサロン活動を実施。当
日は朝からとても暑い日とし
たが、小さなお子さんから高
齢の方まで多くの方にご参加
いただき、一緒にたこ焼きを
作り、食べながら交流しまし
た。この日は150食のたこ
焼きを提供しました。



たこ焼きづくりに小さなお子さんも参加

「地震・水害が発生し、4市
町村から7500人の人口が
減少。これによりスーパー・
病院など生活に必要な施設が
維持できなくなり、集落の維
持が難しくなっている。災害
が発生すると、このような地
域が抱えている課題が明確に

ピースアクション京都 2026

6月21日(日)、京都府生協連のよびかけで
生協組合員約60人が、ピースパレードに参加



京都生協・高倉通孝理事長、京都府生協連・西島秀向会長理事、生協コープ自然派京都・筆口智子理事長、生協生活クラブ京都エル・コープ・浦田千恵前理事、京都府生協連・川村幸子理事らが行進

6月21日(日)、「2026年ピースパレード京都」を実施しました。

「平和と核廃絶の願いをもちより、広島・長崎での世界大会につなげよう」との趣旨ではじまった京都の生協のピースパレードは、今年で42回目となりました。

京都府生協連のよびかけで、京都生協、大学生協連関係、生協生活クラブ京都エル・コープ、生協コープ自然派京都、京都高校生平和ゼミナールの高校生のほか、鳥取県の生協からの参加もあり、組合員・役職員約60人が「今ある平和



京都生協役職員のみなさん



鳥取県の生協からも参加

はたからものー未来をつくるのはわたしたちー戦争も核兵器もない社会をめざして！」をテーマに「NONUKES核兵器はいらない！」のプラカードを掲げ、街ゆく人びとに力強くアピールしました。

多くの観光客の中を、東山区の蹴上から三条通りを行進し、三条大橋を渡り、河原町通りを北上して、京都市役所へ。

折り鶴ペンライトを振って、沿道の海外からの観光客などに折り鳩を配りながら、平和をアピールするなど、華やかな行進になりました。

パレードの出発を前に、蹴上で出発集会が開かれました。

京都府生協連の松本樹事務局長が司会を担当し、京都市協、鳥取県の生協、生協生活クラブ京都エル・コップからの参加者をはじめ、京都高校生平和ゼミナール洛水高校の山本智希さんからピースアピールがありました。

ゴールとなった京都市役所前で開催されたまとめ集会では、西島秀向会長理事よりあいさつがありました。

「戦後80年を越え、被爆者の思いをつなぐ責任は私たちにあります。今日歩いた一歩、そして「核兵器はいらない」という想いを誰か一人に伝え



ピースパレード出発式の様子



ピース交歓会

ること。その小さな行動が、核なき世界への力になります。これからも共に、一歩ずつ平和をつくっていきましよう」と述べました。

その後、京都府生協連の呼びかけで平和を願う想いやメッセージを出し合い、交流を深めることを目的に、ピース交歓会を開催しました。東京から広島まで歩く通し行進者2人と京都府内通し行進者1人を含む26人が参加し、生協関係者や原水爆禁止京都協議会関係者、通し行進者等がメッセージを発言し、交流を深めました。

憲法学習会

「紛争地から見た憲法／平和を選び続けるためにあなたとふみ出す平和の歩」

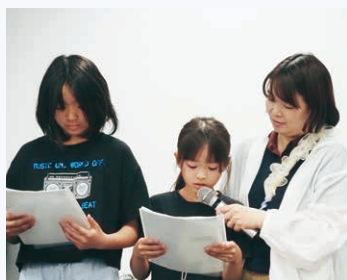
開催報告



フリージャーナリスト西谷文和氏

直し、現在の情勢を理解することを目的としました。

アフガニスタン、イラク、シリア、パレスチナ、ウクライナなど、世界の紛争地を20年以上取材してこられたフリージャーナリスト・西谷文和氏から、現地で見た人々のくらしや戦争の実態、その背景についてわかりやすく語っていただき、映像とともに中東問題など「テレビでは知ることのできない現実」も解説していただきました。



小学6年生 河井宝生さん（左）
小学4年生 河井音宝さん（中央）

後半は、京都で平和について考え、取り組む小学生、高校生、大学生のみなさんから活動の報告がありました。

活動報告の後、西谷さんと高校生・大学生がトークセッションを実施して、幅広い世代の想いや取組みを深め合うことができました。

参加者からは、「現地に実際行かれていての方のお話は現実味があり、興味深かった」、「〇〇ファーストという考え方が、戦争への道に繋がるという恐ろしさを痛感した」、「若い世代が、自分の言葉で自分の感じたことを伝えてくれて、とても嬉しく感心した」などの感想が寄せられました。



トークセッション

京都府生協連 第54回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ

防災・減災学習会

「災害から命を守るためのそなえについて」&「HUG（避難所運営ゲーム）」

4月7日（火）、こくみん共済coop京都推進本部事業推進部代理店推進課代理店推進係・福家剛係長（防災士）を講師にお招きし、コープ御所南ビル4階会議室で開催しました。31人が参加しました。（講師1人、事務局2人、京都府生協連事務局4人を含む）

近年、地震・豪雨・火事などの自然災害が全国で頻発し、私たちのくらしはこれまで以上に大きなリスクに直面しています。こうした状況のなか、生協が組合員とともに防災・減災の学びを広げることとは、いのちとくらしを守るために欠かせません。最新の災害事例をふまえ、家庭でできる備えや地域での助け合いの重要性を共有し、生協として災害に強い地域づくりに貢献することを目的として開催しました。また避難所の運営



こくみん共済coop・福家剛係長

について「HUG（避難所運営ゲーム）」をグループに分かれて実践しました。

はじめに、「大雨・土砂災害からいのちを守る」と題して講演があり、大雨や土砂災害に備えるための事前対策について話されました。ハザードマップの確認やキキクル[※]の活用に加え、「自分だけは大丈夫」と思い込んでしまう無意識のバイアス（正常性バイアス、同調性バイアス）を理解し、事前に避難の基準を決めておくこと、周囲に流されず、自分のいのちを守る行動を優先することで、自助を高め、結果として共助につながるなど、適切な避難行動の必要性について講演されました。

参加者からは、「どこか他人事だった災害への意識が変わった」「キキクルのアプリを初めて知った」「自分が動くことで、周りの避難も促すという率先的な避難者の考え方は、大切な人の命を救う決断だと思った」などの感想がよせられました。

※キキクル：土砂・浸水・洪水の災害の危険度をリアルタイムで地図上に表示する防災情報サービス。安全なうちに避難行動をとることができるようにするためのアプリケーション。

つぎにグループに分かれて「HUG」に挑戦しました。

専用のカードを使用して、大地震などが発生した後に開設される避難所のようすを体験し、避難者が抱える事情を考慮しながら、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、またさまざまな出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームを4チームに分かれて体験しました。参加者からは「軽い気持ちで参加しましたが、防災減災への学びが深まった。他生協の世代が異なる方々とゲームを通して交流ができ、楽しかった」「より多くの人が体験してみるべき。町内会などでも取り上げて、日頃からこの体験ゲームを通してコミュニケーションをとっておくことも重要だと思った」などの感想がよせられました。



HUG（避難所運営ゲーム）のようす

おもな行事のお知らせ

京都府協同組合

「第25回役員体験・交流学校」

主催：京都府協同組合連絡協議会（JA京都中央会・森連・JF京都・生協連）

日時：9月10日（水）13：00～11日（金）12：00（予定）

会場：京都府農林水産センターなど
テーマ：「京都府の水産業を学ぶ」

学習会「協同組合のアイデンティティを考える（仮題）」

日時：10月7日（水）13：30～16：00（予定）

会場：京都経済センター（予定）
講師：前田健喜氏（日本協同組合連携機構C・国際・研究チーム部長）

食の学習会

日時：10月15日（木）13：30～15：00（予定）

講師：平賀 緑氏（京都橘大学経済学部准教授）

2026年度京都府総合防災訓練

日時：10月25日（日）午前
会場：主会場・陸上自衛隊長池演習場（城陽市）、他

※京都府生協連は緊急物資搬送訓練に参加。

京都消費者問題セミナー

日時：11月28日（土）14：00～16：00
オンライン開催

テーマ：「AIとSNSの時代に求められる消費者力（ネットトラブルの現状と対策）」

講師：原田由里氏（二社 EEC ネットワーク理事）

CO-OP

発行：京都府生活協同組合連合会
TEL 075 (259) 1559
URL <https://www.kyotofu-seikoren.com>

〒604-0857

京都市中京区烏丸通一条上る時給屋町258番地

コープ御所南ビル4階